3-10 身の回りの漢字

学習日　月　日（　）

確認しておこう

わたしたちの身の回りには、長い間に決まった言い回しで使われるようになった表現がたくさんあります。ここでは、**漢字三字の言葉**を集めました。――線の横に読み仮名を書きましょう。また、――線の言葉の意味や使い方を国語辞典で調べ、短文を作りましょう。

① **間一髪**（かんいっぱつ）

間一髪のところで、提出期限に間に合った。

② **最高潮**（さいこうちょう）

場内の興奮は最高潮に達した。

③ **小細工**（こざいく）

小細工はしない方がよい。

④ **金輪際**（こんりんざい）

一緒に行くのはもう金輪際ごめんだ。

⑤ **正念場**（しょうねんば）

これからが、正念場なので頑張ってほしい。

⑥ **高飛車**（たかびしゃ）

高飛車なお客さんがいて困る。

⑦ **泥仕合**（どろじあい）

次の対戦は、泥仕合になりそうだ。

⑧ **理不尽**（りふじん）

理不尽な扱いをされて、納得がいかない。

鳥取の文学散歩

鳥取県が舞台になった文芸作品を紹介します。

「暗夜行路（あんやこうろ）」

志賀直哉（しがなおや）（一八八三～一九七一）

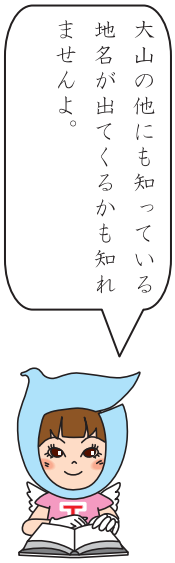
志賀直哉は「白樺派」と呼ばれる小説家の一人です。自然主義に対抗して、人間の内部にある生命の力を信じる理想主義・人道主義の立場を取りました。

「暗夜行路」は志賀直哉の唯一の長編小説です。父との不和を主題とした小説「時任謙作（ときとうけんさく）」が「暗夜行路」に引き継がれて、主人公の名前となりました。時の流れに身を任せ、与えられた運命に謙虚に従っていこうとする主人公の自我形成に主題を移して、「暗夜行路」として再生したのです。様々な苦しみの果てに大山に登った主人公が、大自然の中で全てを許せる心境に達します。

典拠　新国語便覧（第一学習社）

☆読み仮名を書きましょう。

唯一（ゆいいつ）　謙虚（けんきょ）　自我形成（じがけいせい）



3-11

比喩と慣用句

学習日　月　日（　）

確認しておこう

「まるで～のようだ」「～みたいだ」という感じから、ある物事の性質や様子を、それと似たものや、似たところのあるものを使って表現することを**比喩**といいます。

☆　左の写真を見て感じたことを、比喩を使って表現してみましょう。

まるで、

例　むらさきのカーペット

のような　らっきょう畑。

右の形で書きにくい場合は、この欄に自由に書きましょう。

まるで、むらさきの絵の具が流れたような、きれいならっきょう畑。

☆　左の写真を見て感じたことを、比喩を使って表現してみましょう。

コハクチョウが、

例　水の上を走っている

みたいに羽ばたいている。

☆　次の慣用句は比喩からきたものです。どちらかを選んで文を作りましょう。

○　借りてきた猫

例　親せきの子どもを預かったが、借りてきた猫のようにおとなしかった。

○　蚊（か）が鳴くよう

山田さんは蚊が鳴くような声で返事をした。

鳥取の文学散歩

香川　景樹（かげき）　歌人（一七六八～一八四三）

香川景樹は江戸期の歌人です。鳥取藩士荒井小三次の次男として生まれました。父を亡くして伯父である奥村定賢の養子となりました。二十六歳の時、妻を伴って京都に出て、苦学しました。一七九六年、歌の師匠であった香川景柄（かげもと）の養子となりました。一八〇四年、香川家を離縁されて独立しましたが、引き続き香川姓を名のることは許されました。彼の率いる一派は「桂園派（かつらそのは）」と呼ばれ、晩年には門弟一千を数えるまでに成長しました。そして、明治時代に至るまで、歌壇に大きな影響を与え続けることになりました。

大堰川（おほゐがわ）かえらぬ水に影見えて
ことしもさける山桜かな『桂園一枝』

大井川、その再び帰ることなく流れる水に影を映して、今年も咲いた山桜であるよ

参考　ウエブサイト「やまとうた」

☆読み仮名を書きましょう。

養子（ようし）　師匠（ししょう）　門弟（もんてい）

3-12 特別な読み方をする語　学習日　月　日（　）

確認しておこう

常用漢字表の「付表」には、特別な読み方をする語として百十語が示されています。中学校で学習した語が正しく読めるかどうか、確認しましょう。

☆ 次の漢字に読み仮名を書きましょう。

小豆（あずき）	海原（うなばら）	風邪（かぜ）	早苗（さなえ）
硫黄（いおう）	乳母（うば）	仮名（かな）	時雨（しぐれ）
意気地（いくじ）	笑顔（えがお）	為替（かわせ）	竹刀（しない）
田舎（いなか）	乙女（おとめ）	心地（ここち）	芝生（しばふ）
砂利（じゃり）	太刀（たち）	凹凸（おうとつ）	日和（ひより）
白髪（しらが）	足袋（たび）	名残（なごり）	土産（みやげ）
相撲（すもう）	梅雨（つゆ）	雪崩（なだれ）	息子（むすこ）
草履（ぞうり）	二十歳（はたち）	波止場（はとば）	紅葉（もみじ）
		木綿（もめん）	大和（やまと）
			行方（ゆくえ）
			若人（わこうど）

叔父・伯父

叔父と伯父の違いを調べましょう。

叔父は父母の弟。
伯父は父母の兄。

叔母・叔母

叔母と伯母の違いを調べましょう。

叔母は父母の妹。
伯母は父母の姉。

鳥取の文学散歩

伊良子清白（いらこせいはく）（一八七七～一九四六）

伊良子清白は八上郡曳田村（現在の鳥取市河原町）に生まれ、雑誌「文庫」に作品を発表しながら河井酔名（かわいすいめい）、横瀬夜雨（よこせやう）などの詩人と交流し、「文庫の三羽烏」と呼ばれました。

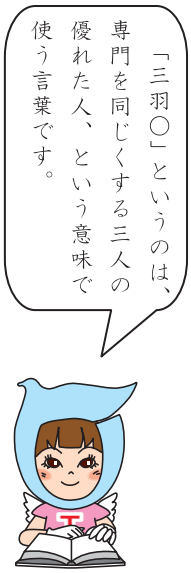
一九〇六年に出版された唯一の詩集「孔雀船」には、それまでに発表した膨大な作品の中から厳選された十八編の詩が収録されています。

幼い頃に故郷を離れ、三重、京都、島根、大分、台湾などを転々とした清白は、その代表作「漂白」にちなみ、「漂白の詩人」とも呼ばれています。

典拠　鳥取県立図書館ホームページ

☆ 右の文には、鳥の名前が漢字で二つ出てきました。その漢字を書き出しましょう。また、その漢字に読み仮名を書きましょう。

烏	（　　）（からす）
孔雀	（　　）（くじゃく）



3-13

古典を読もう 1

学習日　月　日（　）

☆ 古文の表現に慣れ、その特徴をつかんで読み味わいましょう。

問題　次の二つ文章は、松尾芭蕉の「おくの細道」からの抜粋です。例にならって歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、全文を平仮名で書きましょう。（例　草の戸も住み替はる代ぞ雛の家→くさのともすみかわるよぞひなのいえ）

月日は百代の過客にして行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて、老いをむかうる者は、日々旅にして旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり。

つきひははくたいのかきゃくにしていきこうとしもまたたびびとなり。ふねのうえにしょうがいをうかべ、うまのくちとらえて、おいをむこうるものは、ひびたびにしてたびをすみかとす。こじんもおおくたびにしせるあり。

かねて耳驚かしたる二堂開帳す。経堂は三将の像を残し、光堂は三代の棺を納め、三尊の仏を安置す。七宝散り失せて、珠の扉風に破れ、金の柱霜雪に朽ちて、既に頽廃空虚の叢となるべきを、四面新たに囲みて、甍を覆ひて風雨を凌ぐ。しばらく千載の記念とはなれり。

五月雨の降りのこしてや光堂

かねてみみおどろかしたるにどうかいちょうす。きょうどうはさんしょうのどうをのこし、ひかりどうはさんだいのひつぎをおさめ、さんそんのほとけをあんちす。しぼうちりうせて、たまのとびらかぜにやぶれ、こがねのはしらそうせつにくちて、すでにたいはいくうきょのくさむらとなるべきを、しめんあらたにかこみて、いらかをおおいてふうをしのぐ。しばらくせんざいのきねんとはなれり。

さみだれのふりのこしてやひかりどう

松尾芭蕉は、「おくのほそ道」の中でたくさんの俳句を詠んでいます。現在の句になるまで、何度も推敲を重ねたといわれている句があります。例えば、立石寺で詠んだ「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」は、「山寺や石にしみつく蝉の声」、「閑かさや岩にしみこむ蝉の声」などが伝えられています。みなさんも、俳句（十七音）に感動をまとめ、詠んでみてはいかがでしょうか。

3-14 古典を読もう 2

学習日　月　日（　）

松尾芭蕉は、「平泉」のところで、「さても義臣すぐつてこの城にこもり、功名一時の叢となる。『国破れて山河あり、城春にして草青みたり。』と笠打ち敷きて、時のうつるまで泪を落としはべりぬ。…」と書いています。この「国破れて…」は、唐時代の詩人、杜甫の作品です。芭蕉は、人生の大半を旅に過ごしながら詩歌の道を究めた古人に憧れていました。杜甫もその中の一人でした。

春望（五言律詩）

杜甫

国破レテ山河在リ
城春ニシテ草木深シ
感ジテハ時ニ花モ濺ギ涙ヲ
恨ンデハ別レヲ鳥モ驚カス心ヲ
烽火か連ナリ三月ニ
家書抵あたル万金ニ
白頭掻かけバ更ニ短ク
渾すべテ不レ勝たへレ簪しんニ

次の漢詩の書き下し文を完成させましょう。

国破れて、山河在り
城春にして草木深し
時に感じては花にも涙を濺ぎ
別れを恨んでは、鳥にも心を驚かす
烽火三月に連なり
家書万金に抵たる
白頭掻けば更に短く
渾べて簪に勝へざらんと欲す

鳥取の文学散歩

伊良子清白の「漂白」の前半部分を読み、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しましょう。

漂泊

伊良子　清白

蓆戸に
秋風吹いて
河添の旅籠屋さびし

哀れなる旅の男は
夕暮の空を眺めて
いと低く歌ひはじめぬ

亡母は
処女と成りて
白き額月に現はれ

亡父は
童子と成りて
圓き肩銀河を渡る

柳洩る
夜の河白く
河越えて煙の小野に
かすかなる笛の音ありて
旅人の胸に触れたり

古典を読もう 3

学習日　月　日（　）

和歌（短歌）の主な表現技法を確認しておこう

① 和歌（短歌）の形式…「五・七・五・七・七」の五句三十一音が基本です。

「五・七・五」を上の句、「七・七」を下の句といいます。

② 区切れ…歌の中で意味が切れること。

五七調→二句・四句切れによるもの。（万葉集に多い）

七五調→初句・三句切れによるもの。（古今和歌集・新古今和歌集に多い）

③ 枕詞（まくらことば）…ある語句を引き出すための前置きの言葉。

例えば　ひさかたの→光・天・雲　たらちねの→母　など

防人の歌

韓衣（からころむ）裾（すそ）に取りつき　泣く子らを　置きてや来（き）ぬや　母なしにして

裾にかかる枕詞

四句切れ

④ 掛詞（かけことば）…一つの語に二つの意味を持たせる表現技法

例えば　あき「秋」と「飽き」

⑤ 体言止（たいげんど）め…歌の末尾を体言で止める表現技法。その語を強調するとともに、余韻を残すために用いる。

春の苑　くれなゐにほふ　桃の花　下照る道に　出で立つ少女

体言（名詞）

鳥取の文学散歩

伊良子清白の「漂泊」の後半部分を読み、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しましょう。

故郷の
谷間の歌は
續（つづ）きつ、斷（た）えつつ哀（お）し
大空（おほぞら）の返響（こだま）の音（をと）と
地の底のうめきの聲（こえ）と
交りて調は深し

旅人に
母はやどりぬ
若人に
父は降れり
小野の笛煙の中に
かすかなる節（ふし）は残れり

（下の段へ）

旅人は
歌ひ續（い）けぬ
嬰子（みどりご）の昔にかへ（え）り
微笑（ほほゑ）みて歌ひつ（い）、（っ）あり

「おくのほそ道」の冒頭に「漂泊」という言葉がありましたね。覚えていますか？

「…予もいづれの年よりか片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへ、去年の秋…」と続きました。二人の旅はどんな旅だったでしょうか。おくのほそ道は続きを、伊良子清白は他の詩歌を読んでみては、いかがでしょうか。

3-16 古典を読もう 4　学習日　月　日（　）

☆　次の和歌（短歌）を読んで、下の問いに答えましょう。

万葉集（AB）・古今和歌集（CD）・新古今和歌集（EF）

A　春過ぎて夏来るらし白栲（しろたへ）の衣乾（ほ）したり天の香具山　　持統天皇

B　熟田津（にきたつ）に船乗りせむと月待てば塩もかなひぬ今は漕（こ）ぎいでな　　額田王

C　人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香ににほいける　　紀貫之

D　起きもせず寝もせで夜を明かしては春のものとてながめ暮らし　　在原業平

E　花さそふ比良（ひら）の山風吹きにけりこぎ行く舟の跡みゆるまで　　宮内卿

F　心なき身にもあはれは知られけり鴫立（しぎ）つ沢の秋の夕暮れ　　西行法師

☆三大和歌集の比較をして、和歌の特徴や技法を整理しておきましょう。

上段のFの歌と共に、左の二首を合わせて三夕（さんせき）の歌と呼ばれています。いずれの歌も、秋の夕暮れのしみじみとした「あはれ」の情趣を詠んでいます。

見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋（とまや）の秋の夕暮れ　　藤原定家

寂しさはその色としもなかりけり槇（まき）立つ山の秋の夕暮れ　　寂蓮法師

☆　ABEFは、それぞれ何句切れですか。

（A　二句切れ　）（B　四句切れ　）

（E　三句切れ　）（F　三句切れ　）

☆　ABCDFにある和歌の表現技法を、後ろから選び、書きましょう。

（A　枕詞　）（B　歌枕　）

（C　係り結び　）（D　掛詞　ながめ　眺めと長雨　）

（F　体言止め　）

【表現技法】

枕詞　掛詞　体言止め　係り結び

歌枕（和歌に詠まれ、親しまれている諸国の名所のこと）

3-17 古典を読もう 5

学習日　月　日（　）

「論語」は、孔子やその弟子たちの言行を記録したものです。

書き下し文

子曰はく、「己の欲せざるところは、人に施すことなかれ。」と。

訓読文

子曰、「己所不欲、勿施於人。」

①～③の「訓読文」を「書き下し文」に、また「書き下し文」を「訓読文」にして、漢文に親しんでいきましょう。

① 子曰、「学而不思則罔。思而不学則殆。」

書き下し文にしましょう。

子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

② 子曰はく、「学びて時にこれを習ふ、また説ばしからずや。朋遠方より来たるあり、また楽しからずや。人知らずして慍みず、また、君子ならずや。」と。

返り点や送り仮名をつけて、訓読文を完成させましょう。

子曰、「学而時習之、不亦説乎。
有朋自遠方来、不亦楽乎。
人不知而不慍、不亦君子乎。」

③ 子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、もつて師たるべし。」と。

返り点や送り仮名をつけて、訓読文を完成させましょう。

子曰、「温故而知新、可以為師矣。」